

輝け1年生

2024.11.22

文京区立第九中学校
1学年通信
第22号

~ Now is the time when you shine the most ~

2学期期末考査が終了しました。テストの最も大きな目的は、「それまでの範囲の達成度をつかみ、達成できていないところを明らかにして補充するため」とであると言って差し支えないです。「まー、10点なんて低い点数、なにやってんの!!! (終わり)」「ほー、80点とはたいしたものだ。えらいえらい! (終わり)」これらはどちらも間違っています。困ったものです。

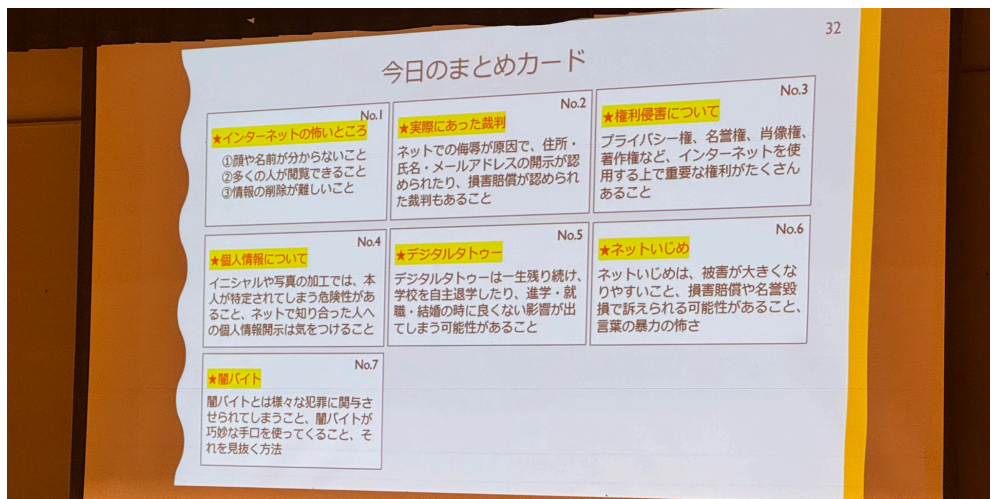
10点ならば、90点分の内容を補充することこそ大事なのであって、「どうして間違っただろう」と原因を探り、「覚えてなかった、これから覚えなおさなきゃ!」と焦るのが本来の姿であるべきです。10点だったからといって、「へーへー、もーあきらめたーどーでもいーやー」なんて逃げてる場合じゃないんです。成功とは、成功するまで続けること、ただそれだけです。

また80点の場合、テストで○を付けられ、「正解」として扱われたその2点、あるいは4点、本当にあなたがその内容を理解しての2点でしょうか? 記号問題など、「えーっと、分かんねーなー…いいや、カンで書いとこうとと…」って書いた「イ」がたまたま合っていたのだとしたら、本当にそこは理解できてはいないわけです。同じ問題でも、出てくる数字が変わったり、問題文の問い方が変わったとたん間違ってしまうなら、80点は本当の80点とは言えません。80点ならば、本当に80%理解できていたのかどうかを検証し直すのが筋です。それをそのまま、「合ってたから」といって見逃すのです。そんなテスト直しになんの意味があるのでしょうか。そして残り20点分の補充をすることも忘れてはなりません。

文頭を要約すれば、定期テストは

「理解できていないところを明らかにする」「理解できていないところをできるようにするためのきっかけ」でしかないということです。テストが終わってからがスタートなのです。

そのテストをやった時点での達成度がその点数で、その集合体が評定であるわけで、それはすでに「過去のもの」であることに気付かなければなりません。その時の達成度を正しく知るための点数であり評定であるわけだから、その後、達成できていない部分を補充し、埋めていくことこそが1・2年のテストや評定の意味です。取ってしまった点数を後生大事に抱えておき、通知表の5・4・3・2・1に一喜一憂するのは、誠に愚かなことです。



セーフティ教室では、弁護士の西原さんに身近なネット犯罪についてお話していただきました。今一度まとめカードを確認しましょう。

行事予定

- 25日(月) 生徒会朝会(部長) ①席替え、Edv Path
- 26日(火) 学年朝会
- 29日(金) ①⑥カット 午前授業